

ディビジョン番号	19
ディビジョン名	化学教育

大項目	5 化学普及
中項目	5. 4 化学だいすきクラブ
小項目	

概要
<p>子ども達が化学に継続して興味をもって成長し、やがて幅広く科学の常識を身につけた将来の化学を担える人材となるように、小学生から高校生まで広く対象として「化学だいすきクラブ」を組織している。事業としては 中高生、特に高校生を対象とした「Newsletter」の発行（年4回）、小学生を対象とした「化学だいすきキッズ」の発行（年2回）、中高生、特に高校生を対象としたイベント（「大学研究室への招待」と「工場見学」）の開催を行っている。</p>
背景
<p>子どもたちが小学校、中学校、高校と進むにつれて理科や科学から離れてゆくいわゆる「理科離れ」が問題となっている。化学及び化学産業の発展のためには、子ども達が化学に継続して興味をもって成長し、やがて幅広く科学の常識を身につけた将来の化学を担える人材となるように、小学生から高校生までを広く対象として、理科、さらには化学の世界にふれる場を提供する化学啓発事業を展開することが急務である。</p>
課題・問題点
<p>小学生から高校生に、理科や化学の素晴らしさを伝えるチャンネルをできる限り増やすことが必要である。現状に対する課題は下記の通りである。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 高校生 <ul style="list-style-type: none"> <li>・広い意味での化学系学部や化学系学科を進路として考えるように働きかける。</li> <li>・化学及び化学産業の重要性を認識させる。</li> </ul> </li> <li>2) 中学生 <ul style="list-style-type: none"> <li>・理科、特に化学に関連する領域への関心を高める。</li> <li>・特に興味がある学生に、より高いレベルの化学の世界を体験させる。</li> </ul> </li> <li>3) 小学生 <ul style="list-style-type: none"> <li>・理科離れを防ぎ、理科、特に化学の楽しさを実験等で体験させる。</li> </ul> </li> </ol>

<p>対処方法・解決方法の提案</p> <p>現在（2006年度）下記の啓発事業を展開している。</p> <p>1) 全国組織としての化学だいすきクラブの組織</p> <p>小学生から高校生までもを対象に、化学だいすきクラブを組織している。2006年度末現在会員数は600人を超えており、小学生、中学生、高校生がほぼ1/3ずつの構成となっている。</p> <p>2) 「Newsletter」の発行</p> <p>中高生、特に高校生を対象とした冊子「Newsletter」を年4回発行している。主な内容は、「私が化学を選んだ理由」、「周期表 A to Z」、「最先端の化学（日本化学会賞を受賞された先生方のご研究の紹介）」、「暮らしの化学 最前線（身近な製品における化学技術の紹介）」、「化学実験道場」、「家庭でトライ!!」、「化学ワンポイントアドバイス」、「コーヒープレイク」などである。</p> <p>3) 「化学だいすキッズ」の発行</p> <p>小学生を対象とした冊子「化学だいすキッズ」を年2回発行している。主に小学生が家庭でできる実験を紹介している。</p> <p>4) イベントの開催</p> <p>中高生、特に高校生を対象とした「大学研究室への招待」と「工場見学」を開催し、これまで体験できなかったレベルの化学を体験させている。</p>
<p>今後推進すべき課題</p> <p>① 会員数を増やし、全国的に広く会員を有する組織とする。</p> <p>② イベントを全国各地で開催し、会員が化学を体験できる機会を増やす。</p>
<p>主要参考文献</p> <p>なし</p>
<p>キーワード</p> <p>化学普及、理科離れ</p>

（執筆者： 菅原 義之）